

横山ら (2003), 横山ら (2004) にも記載がなく, 存在する可能性はあるが, 保全生態学研究会 (2005) の別表を示したウェブページや, 本種の日撃・標本記録を整理した保全生態学研究会のウェブページは現在リンク切れを起こしており, 参照できなかった.

古い記録ではあるが, 筆者は 2006 年 5 月 14 日 17 時ごろ, 神戸市西区伊川谷町井吹の畑にてタマネギ *Allium cepa* L. に訪花していた本種を撮影していた記録が残っていたのでここに報告する (図 1). これは池田 (2020) と同地点である. 本種は 2005 年に特定外来生物に指定されているが (国武・五箇, 2006), 何らかの理由で逸脱していた個体の可能性がある. 定着は不明である. 当時ハウス栽培をしていた地点は筆者は確認していない. タマネギへの訪花記録は鷺谷 (1997), 保全生態学研究会 (2003), 保全生態学研究会 (2005), 横山ら (2003), 横山ら (2004), 多田内・村尾 (2014) でも記録がなく, 少なくとも国内での文献での記録は少ないと思われる.

飼育規制の強化や (環境省, 2019), 逃亡防止のためのネット技術が進展している (小出ら, 2008) 現在でも確認できるかは不明だが, 当時の兵庫県下の文献としての記録や訪花記録としては少ない例と思われたので報告する.



図 1 神戸市西区伊川谷町井吹, 2006 年 5 月 14 日.

○引用文献

- 保全生態学研究会, 2003. マルハナバチ一斉調査 (第六報). 保全生態学研究, 8(2): 175-180.
- 保全生態学研究会, 2005. マルハナバチ一斉調査 北海道と栃木県でのセイヨウオオマルハナバチの確認. 保全生態学研究, 10(1): 85-87.
- 環境省, 2019 年 12 月 17 日最終更新. セイヨウオオマルハナバチ. <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/seiyou.html>
- 小出哲哉・山田佳廣・矢部和則・山下文秋, 2008. 温室におけるマルハナバチ逃亡防止のためのネット展開技術. 日本応用動物昆虫学会誌, 52(1): 19-26.

国武陽子・五箇公一, 2006. 農業用導入昆虫の生態リスク管理と将来展望 セイヨウオオマルハナバチの特定外来生物指定. 植物防疫, 60(4): 196-198.

池田健一, 2020. 神戸市西区におけるアヤモクメキリガ幼虫の記録. きべりはむし, 43(1): 60.

多田内修・村尾竜起, 2014. 日本産ハナバチ図鑑, 479pp. 文一総合出版. 東京.

鷺谷いづみ, 1997. セイヨウオオマルハナバチの日撃・標本採集についての情報 (1997 年 6 月まで). 保全生態学研究, 2(2): 103.

横山潤・松村千鶴・杉浦直人・松本雅道・加藤真・鈴木和雄・鷺谷いづみ, 2003. 在来マルハナバチ類保護のためのセイヨウオオマルハナバチの野生化状況の評価と駆除方法の開発. プロ・ナトゥーラ・ファンド助成成果報告書, 12: 3-10.

横山潤・松村千鶴・中島真紀・杉浦直人・松本雅道・加藤真・鈴木和雄・鷺谷いづみ, 2004. 在来マルハナバチ類保護のためのセイヨウオオマルハナバチの野生化状況の評価と駆除方法の開発 (2). プロ・ナトゥーラ・ファンド助成成果報告書, 13: 47-54.

吉田浩史, 2000. セイヨウオオマルハナバチを兵庫県で確認. Nature Study, 46(1): 12.

自然環境研究センター, 2008. 日本の外来生物 決定版, 479pp. 平凡社. 東京.

(Kenichi IKEDA 東京都狛江市)

神戸市西区にてヨモギにいるクモガタテントウを確認

池田健一

クモガタテントウ *Psillobora vigintimaculata* (Say, 1824) は南部アラスカ, カナダ, アメリカ, 北部メキシコを自然分布としており (佐々治, 1992), 日本には 1984 年に東京の大井埠頭で記録された外来種である (窪木・和泉, 1985). その後, 神奈川県 (松原, 1986; 高桑・中村, 1989), 大阪府 (齋藤, 1991; 初宿, 2006; 河上, 2007), 兵庫県 (初宿, 2000), 奈良県 (桜谷・松本, 2002), 千葉県 (山崎, 2011), 京都府 (中島ら, 2006; 河上, 2007; 日高, 2015), 愛知県 (大塚, 2012; 山崎, 2016), 滋賀県 (滋賀県, 2019) などで記録があり, 大阪市立自然史博物館では大阪・近畿地方を中心とした外来生物調査プロジェクトでの調査種として扱われている (初宿, 2018 最終更新). 日本では都市部, 平地に棲息し, 成虫越冬する (初宿, 2005). うどんこ病やすす病をおこさせる子嚢菌食性で (初宿,

2005), 日本ではセイタカアワダチソウ寄生のうどんこ病菌を摂食していることが確認されており(窪木・和泉, 1985; 松原, 1986; 高桑・中村, 1989; 桜谷・松本, 2002; 河上, 2007; 山崎, 2011), 付着が確認された植物としてはエノキの例(初宿, 2005; 釋, 2006), フヨウの例(初宿, 2005), ケヤキの例(日高, 2015)も知られる。

兵庫県内では, 1998年に西宮市, 1999年に芦屋市と尼崎市(初宿, 2000), 2014年に神戸市中央区神戸空港島(吉田, 2015), 2007-2015年に伊丹市から記録があるが(長島, 2017), 大阪府と比較すると報告が少ない。吉田(2015)では「少なくとも兵庫県南東部には広く分布する可能性がある」とされている。

筆者は2006年11月3日9時頃に兵庫県神戸市西區井吹台西町2丁目で本種を撮影したのでここに報告する(図1)。撮影地付近は住宅地である。車道沿いの植樹帯に生えたヨモギ *Artemisia indica var. maximowiczii* (Nakai) の葉下面上に静止していた。ヨモギの葉上の様子からうどんこ病に感染しているものと思われる。なお、ヨモギに寄生するうどんこ病菌としては *Golovinomyces ambrosiae* (Schwein) が知られている(高松, 2012)。

今回の報告は兵庫県内では最も西で, 分布拡大の間を埋める記録となると思われる。また, 観察された植物も少なくとも国内では既報告と異なるものであると思われる。



図1 ヨモギ葉上のクモガタテントウ。

○引用文献

- 日高直哉, 2015. 京都府亀岡市におけるクモガタテントウの記録. 月刊むし, (530): 44.
- 河上康子, 2007. 京都市鴨川河川敷と大阪市淀川河川敷におけるクモガタテントウの越冬生態. Nature Study, 53.4: 8-9.
- 窪木幹夫・和泉敦夫, 1985. 日本初記録の *Psyllobora* 属のテントウムシ. 甲虫ニュース, 67/68:11.
- 松原豊, 1986. 神奈川県未記録のクモガタテントウを採集. 月刊むし, (190): 7-8.
- 長島聖大, 2017. 伊丹市のテントウムシ科(コウチュウ目). 伊丹市昆虫館研究報告, 5: 39-43.

- 中島智子・水谷文恵・白岩秀昭・田辺隆志, 2006. 研究所構内の昆虫リスト(2004年10月から2005年12月). 京都府保健環境研究所年報, 51: 55-61.
- 大塚篤, 2012. 名古屋市内のクモガタテントウ. 佳香蝶, 64(252): 84.
- 齋藤琢巳, 1991. 大阪府下におけるクモガタテントウの記録. 月刊むし, (249): 39.
- 桜谷保之・松本宣仁, 2002. 近畿大学奈良キャンパスにおけるテントウムシ相. 近畿大学農学部紀要, 35: 1-11.
- 佐々治寛之, 1992. 日本から最近新しく追加されたテントウムシ類. 甲虫ニュース, 100: 10-13.
- 滋賀県, 2019. 滋賀県外来種リスト2019. <https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5147117.pdf>
- 初宿成彦, 2000. 大阪のテントウムシ—ミニガイドに掲載した種の最近の採集データについて—. 宮武頼夫さん退職記念論文集, 宮武頼夫さん退職記念論文集・編集委員会: 125-129.
- 初宿成彦, 2005. 大阪のテントウムシ 改訂版, 39pp. 大阪自然史センター. 大阪.
- 初宿成彦, 2018 最終更新. 外来昆虫(甲虫目/半翅目)の分布拡大を調べています. http://www.mus-nh.city.osaka.jp/shiyake/invasive-insect_coleo-hemi.html
- 釋知恵子, 2006. コモ巻き冬越し生き物調査結果. Nature Study, 52(11):17-18.
- 高桑正敏・中村一恵, 1989. 川崎市多摩川河口域におけるクモガタテントウ. 神奈川自然誌資料, 10: 87-88.
- 高松進, 2012. 2012年に発行される新モノグラフにおけるうどんこ病菌分類体系改訂の概説. 三重大学大学院生物資源学研究所紀要, 38:1-73.
- 山崎秀雄, 2011. 千葉県市川市でクモガタテントウを発見. 千葉生物誌, 61(2): 10.
- 山崎隆弘, 2016. テントウムシ科. 豊田市生物調査報告書, 豊田市生物調査報告書作成委員会: 99-105.
- 吉田浩史, 2015. 神戸空港島の昆虫相. きべりはむし, 37(2): 37-48.

(Kenichi IKEDA 東京都狛江市)